



「衣替え」 夏服から冬服へ!?

「衣替え」は、10月1日を目安に夏服から冬服へ、6月1日を目安に冬服から夏服へと替える風習です。「衣替え」には、日本ならではの感性や生活文化が息づいています。

◆ 衣替えの由来と時期 ……「更衣」⇒「衣更え(衣替え)」

衣替えは平安時代に中国から伝わった習わしで、宮中行事として年2回衣を替えるようになりました。当初は「更衣(こうい)」と言いましたが、女官の役職名に用いられるようになったため、「衣更え(衣替え)」と呼ばれるようになりました。

・旧暦の4月1日～9月末(夏服)

・旧暦の10月1日～3月末(冬服)

江戸時代になると着物の種類が増えたため、気候に合わせて年に4回衣替えをするよう、武家社会で定められました。これが庶民にも広がっていきました。明治時代に洋服が取り入れられると、役人や軍人などが制服を着るようになり、暦も新暦に変わったため、夏服と冬服を年に2回替えるようになりました。すると、学校や家庭にも衣替えの意識が浸透し、現在に至っています。

・6月1日～9月末(夏服)

・10月1日～5月末(冬服)

◆ 衣替えの文化的意義 ……「なぜ一斉に衣替えをするの？」

制服の場合は、ある一定の組織や集団に所属する者が着用するように定められている服装なので、一斉に衣替えをするのも道理です。とはいえ、地域によって気候風土が違うので、衣替えの日程を調整したり、春・秋用の合服を採用したりしながら、衣替えを実施しています。

家庭の場合は、衣替えの日を目安に季節に合わせた衣服を着用するようになりました。その背景には、日本ならではの感性があります。日本人は、古来より、服装というのは自分のためだけのものではないと考え、着ている服が周りの人に与える影響も考慮しながら暮らしてきました。特に大事にしてきたのが季節感で、季節を先取りするのは良いけれど、過ぎた季節を引きずるのは野暮なこととされてきました。例えば、10月1日にすべてを冬物にする方はほとんどいないと思いますが、10月に入ったら、秋らしい装いを心掛けるようになりませんか。Tシャツでも、いかにも涼しげな夏の絵柄ではなく、秋らしい色柄にした方が馴染むでしょう。「秋らしい」「春っぽい」という



のは褒め言葉ですが、その季節に合わない「暑苦しい」「寒々しい」などと言うように、何気ない一言からも、私たちが日ごろから季節感を意識していることに気が付きます。ですから、季節に応じた装いができるよう、家庭でも10月1日を目安に夏物と冬物を入れ替えるようになったのです。衣替えには、日本人が育んできた季節感や文化があるということを忘れないでいてほしいと思います。

